

150

獨逸電撃戦下に於ける
倫敦生活手記

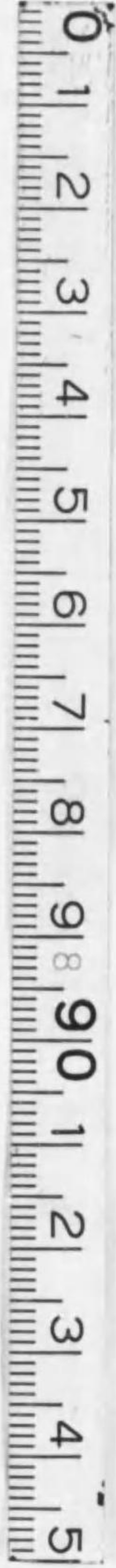
財團法人 大日本防空協會

特249

411

235

259



始



第249
259

獨逸電撃戦下に於ける倫敦生括手記



昨十年の獨逸軍空撃に依り壊れたる英國議事堂中の庭

大日本防空協會 財団法人



米國で發行して居る週刊雜誌「タイム」の倫敦支局長、ウオーター・グレイブナー氏は、獨軍の倫敦空襲開始以來、倫敦の心臟部に生活しつゝ、執務して來た。九月には睡眠中に其の住宅を爆撃されたので、其の後はずつと「タイム」支局に寮泊して、執務を続け、空襲の烈しい場合には、地下の防護室に避難の夜を明してゐた。

氏は先週紐育に到着、暫時滞在の後、再び倫敦に歸還する筈である。以下の記事に氏が同じく米國の週刊雜誌「タイム」に寄稿したものの抄録であるが、之に依つて獨軍空襲下に於ける倫敦市民の一般生活が偲ばれよう、尤も氏は米國人である限り、米國の立場から事物を觀察して居るので、果して事實の真相に誤りなきや否やは俄に斷定し難いのであるが、少くとも臆るげながらも、空襲下に於ける、倫敦市民が如何なる心構へと、如何なる態度とを以て、獨逸の空襲に對抗して居るかを察知する資料であると思はれるので、之を一般に紹介することとした。尙ほ茲に記載した事實は、昨年八月獨逸の對英攻撃が開始せられてより、本年一月初旬本文の記者が一時歸米の爲め倫敦を離れる迄の間に於て發生せるものであることを含み置かれない。

昭和十六年五月上旬

獨逸の電撃戦下に於ける倫敦生活手記

市民は沈着に爆彈の漏斗坑を處理し、
競つて防空壕を掘り各其の職務に當つてゐる

倫敦市民は目下籠城同然の生活を送つて居る。此の攻略の成否如何が、第二次世界大戰の勝者を決定する鍵とならう。此の尤大な灰色の都會に取残された六百萬の市民は、六ヶ月と云ふものを、バツキングム宮殿を去ること百哩にも足りない、英佛海峡の彼方に堅陣を張つた、地球上最大の陸軍の恐る可き侵入の脅威下に生活してゐる。

倫敦南部郊外の市民達は、時には沿岸の諸都市を砲撃する巨砲の咆哮を聞くことさもある。恐らくナチス軍は其處に橋頭堡を築き上げるつもりであらう。侵入の危険に對抗するため、英國の參謀本部では、各方面から一舉に侵入して來る場合をも考慮して嚴重なる軍事施設を施し、倫敦に通ずるあらゆる

環狀道路及幹線道路には、地雷を敷設してゐる。

鐵道の停車場、政府の諸機關、工場、橋梁其の他の重要地點には、機關銃やライフル銃を持つた防護軍が晝夜を分たず哨戒して居り、重要な交叉點には凡て砂囊のバリケードやトリチカが設けてある。装甲自動車、輕機關銃車、運搬自動車等の轍の響が、小止みなく街上に轟き、新米の英國兵や聯合國兵が街路をうねつて行く。

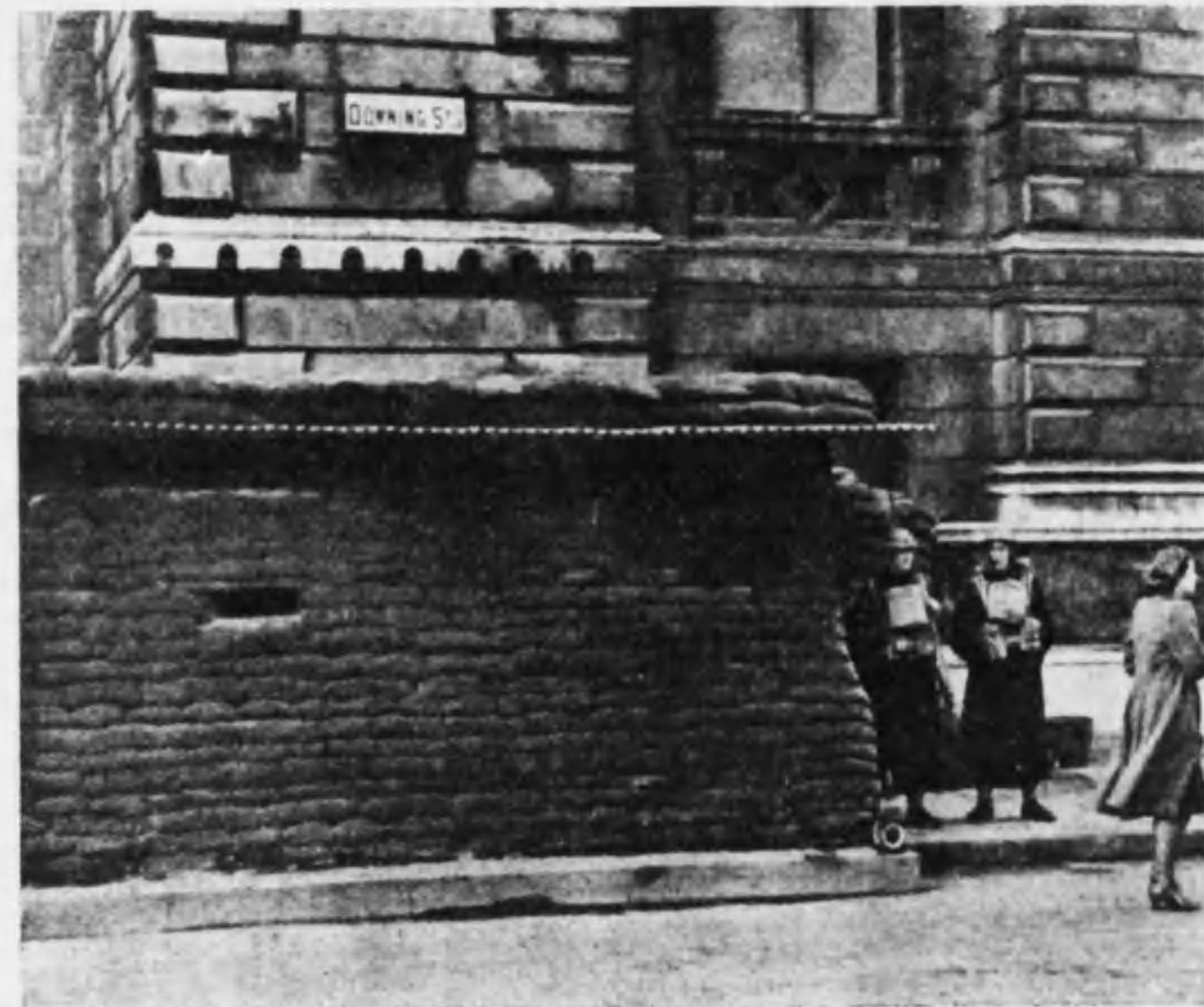
空襲警報、炸烈する爆彈、唸る航空機、火を吐く砲列、活躍する野戦病院車、全市中は無限に續く空爆の爲めに、時を分たず眠りを破られるのであるが、此の凄慘壯絶な攻撃に對して、倫敦の生活は不思議な程落着いて營まれて行く。倫敦市民の電撃戦に對抗するのに適しゐる事は驚嘆に値ひする。元來



二つのダンソー防空壕が爆撃の後に残った状態に
残存せるを示す無言の弾撃が命のたしめはな

(英空軍)の勝利も、タラント及希臘、埃及に於ける伊太利軍の敗北は勿論、倫敦及其他の地方の諸都市に對する猛烈な空襲さへ倫敦市民は全然感動もしない。倫敦市民に獨逸や伊太利に對する憎惡を煽る事は全然不可能だと考へてゐる。併かも彼等の胸中に去來するものと云へば、只最後の勝利を獲得すると云ふ一念のみである。例へ獨逸國防軍がテムズ河の堤防に怒濤の如く襲来しようと倫敦市民は「英國は毎戦に敗北しても最後には勝つぞ」と堂々と云ふだらう。

斯うした覺悟を固めてゐるので、倫敦市民は戦争の進展を細かに検討したり、乃至は如何にして勝利を得るかの問題で、くよくよして居ない。佛蘭西が潰滅しても、彼等は單純と云ふか、又は寧ろ哲學的とでも云ふか、本當はさう佛蘭西を當にしてゐなかつたのだ。これから緊揮一番しなくて



砂藁を以て防護し機銃を備付けた英首相官邸

四
が、小柄で骨ばいので、狹隘なアンダーソン防空壕にもぐり込む素早さといつたらない。彼等は粘液質なので、すぐ傍で死傷者や樁事があつても顔色一つも變へない。又高級の生活に慣れてゐないために、家庭や財産や職業を奪はれても不平を云はない。要するに毎日三四杯のお茶が飲めて、歩き廻れさえすれば、一番大切な欲望は満たされたといつてよい。何百年の間世界でも最悪の氣候の下にゐた結果、倔強な倫敦市民ならば、屋根に雨もりがしやうが、防空壕が濕つてゐやうが、じつと我慢してゐる。過去に於て夥しい戦争をして來ただけに、今次の戦争が激烈を極めて最高潮に達して來ても、災禍とは考へない。

今回の戦争では、未だ何一つとして倫敦市民を興奮せしめたものはない。諾威及ダンケルクの撤退も、佛蘭西の崩潰も、獨逸空軍に對するR・A・F

はならぬと云つて居る。同様に一般市民は戦争に勝つ爲めに合衆國の援助をさう當にしてもゐない。大量の救援物資が送られた曉には勿論感謝はするであらうが、例の如く落付き拂つて、感激を表に現はすことはあるまい。又萬一物資が來なくとも悲觀もしなければ、其の爲めにアメリカに辛く當る事もあるまい。倫敦市民に對し、合衆國の戦争援助の可能性如何と云ふ問題に話頭を進めてみると、彼等は斯ふ云ふ、「何故アメリカは斯んな紛争の中に割り込みたがるのだらう。大西洋を控へた彼岸で、ゆつくり見物して居られるではないか。ヒットラーを始末する位は手傳つて貰はなくとも結構だ。」獨逸が果して英國に對すると同様に、米國に對しても重大な脅威を與へるか否かに就ては、疑問の餘地があるが、それにしても、一般の倫敦市民は、戦争に勝つために現在以上に米國の援助を望むが如き心持はないと云

ふ事だけは斷言出来る。

倫敦は其の老大な廣がりとも云ふ點を考へてみても、他の都市に比し遙かに空襲に對抗するのに適してゐると思はれる。ナチス空軍は地方の相當の大都市の中心部を一夜にして灰燼と化して仕舞つたが、倫敦の中心部たるや少くとも三十夜と云ふものは、絶え間なく激烈な爆撃の洗禮を見舞はれたにも拘らず、依然として従來と餘り變らない。ウエストエンドでは、コヴェントリー、プリストル、サザンブトンの徹底的に破壊された商業地區と稍比較し得ると思はれる地點は、只一つオックスフォード街のジョシ、レイニス(百貨店)地區位のものである。

九十日間に爆弾十萬發

最近九十日間に、倫敦のメトロポリタン區域には少くとも十萬發の爆弾が投下された。其の中の約半



在倫敦逸病院内地に落下せる二百二十ポンドの計時爆弾(ムイタ) 在倫敦逸病院内地に落下せる二百二十ポンドの計時爆弾(ムイタ) 在倫敦逸病院内地に落下せる二百二十ポンドの計時爆弾(ムイタ)

數は、焼夷彈であつて、是等は爆發力こそないが、投下後數分の内に砂、毛布等で消火せしめぬ限り、忽ち恐しい火を吐く。九月のドックの火災に懲りたため、倫敦市民は此の焼夷彈を消すのが巧みになつた。約一區劃(クオター)毎に高性能焼夷彈が數個投下される、是等は二十五ポンドから千ポンドの重量を持ち、堅いものに當ると、直ちに破裂する。其の中約五分の一は時計爆彈で、投下後三分乃至三日の間に炸裂する。残りは地雷であるが、之は高度の爆發剤のつまつた四千ポンド程の金屬の圓筒で、バラシユートがついてふはふはと落下し來り、最も恐るべき被害を與へる。

ピカデリー廣場を中心とする百平方哩中、少くも一箇の爆彈を受けてゐない地區は、極く僅かしかあるまい。所がそれでも豫想する程の被害はないのである。例へば、倫敦を終點とする主要鐵道は十三本

あるが、事故と云へば、此の中只一本が數時間停止した事があるに過ぎない。驛を襲つた爆弾は、數哩も離れた幹線のトンネルの向ふの或る街路に落下した。同様にテームズ河に沿つて倫敦中心部の十哩に亘つて架つてゐる夥しい橋梁に對し、獨空軍は未だ一箇の爆弾をも命中せしめ得ない。同地域内の生活必需品たる、瓦斯、動力、水道等の施設にしても、若干が近傍に落下した爆弾の爲めに多少の被害を蒙つたのみで、依然として活動を繼續してゐる。被害と云つても導管乃至タンクが爆撃されて、二三時間供給が中斷せられたに過ぎない。工場は大部分平方哩の外部にあるのであるが、地方都市の工業地帯と同様に何か奇妙な理由によつて、獨逸の爆撃を事實上受けてゐない。軍事的見地から云へば、爆弾が多くは倫敦の家屋、教會、公共建築、學校、旅館、映画館、商店、アパート及廣場等に投下されたのは、

結局英國側にとつては好運であつたのである。

倫敦市中でイーストエンド程爆撃された所はないのであるが、其の被害は實に慘憺たるものであつた。これはイーストエンドが狭い古い古いごとくと詰つた住宅と商店とから出來上つた廣いスラム地帯で爆弾を一發投下されると一舉にがらりと瓦解するからで、周知の如く、一發の地雷が能く四百家族の住宅を奪つた事さへあつた。

ウエストハムのドック地域は、三十萬の人口を擁してゐるが、其中約半數以上の家屋が居住不能になつた。斯うした家屋は、或は全然破壊されたものもあり、或は大修理が必要な程度に傷められたものもあるのであるが、勞働力及物資の戦時管理の上から到底修理は覺束ない。ウエストハムの住民は家屋の破壊の外にも、尙幾多の問題に直面した。蓋し全住民の三分の一以上は防護室を持たず、他の四分の一

は防護室があつても、半ば水びたしになつてしまつた。又ウエストハムが爆撃された場合の彼等の窮境は、友人の住宅やホテルへ行かれる中流や、上流階級の人々に比して、洵に察するに餘りあるのである。ウエストハムの人々は公共防空壕へ出て行くか、又は街の中央に居残つてゐるより仕方がない。此の人の友人の家は爆撃されてしまつたか、又は萬一無事に残つて居るやうな場合でも、既にもう避難者が一杯に詰めかけてゐるからである。

ウエストハム其の他のドック地域は、電撃戦の初期に於て、極めて手酷くやつつけられた。最初から危険な位置にあつた所へ、土地の當局が、局部的な口論をしてゐて、政府當局と協力一致しようとする氣持がなかつた爲めに、かうした重大な破局を生んだのである。ウエストハムの住民達は九月十日（火曜日）の午後に於けるホースフェリー通りの學校に

起つた悲劇より受けたる生々しい衝動から今でも尙立ち直つてゐない。當日は、ドック地域が爆撃されて四方一面が火の海と化したので、約六百の住宅を失つた婦人や子供達は、田舎へバスで運んで貰ふために、ホースフェリー通りの學校へ殺到した所が、ウエストハムの役人はまごまごする許りで、バスを違つた所へ差向けてしまつた。さうして此の六百の人々が、今か今かとバスを待たびてゐる間に、五百ポンドの一發の爆弾が學校の天邊に直角にぶつゝかつた。滅茶滅茶に破壊された跡から救ひ出された生存者は約五十人に過ぎなかつたのである。

ホースフェリー通りの學校の爆撃は最近の倫敦に於ける最悪の悲劇であつた。未だ公式の發表は出てゐないが、從來の爆撃による損害は總計で、死者一萬八千、負傷者は二萬五千、物資の損害は十億弗に上るものと推定される。此の外、種々の混亂たるや



間時八1め爲の弾爆で所臺の室下地が員隊護救
るあで所居てし出救を入婦た居てれきに埋生
下ら拘もに躍活の隊護救るな壯勇や室護防下地
る居てつ上に入千八萬一に者死の中市教倫

甚しいものがある。九月、十月の最悪期間中、幾千といふ、イーストエンドの婦人や子供が、誰一人姓名も住所も記録するものもないままに、地方へ送り出されてしまった。後になつて、其の良人達が勞務や軍務から帰宅してみると、其の家族がゐない。以來如何に手を盡して探しても皆目分らなかつた

と云ふ事件が続出した。

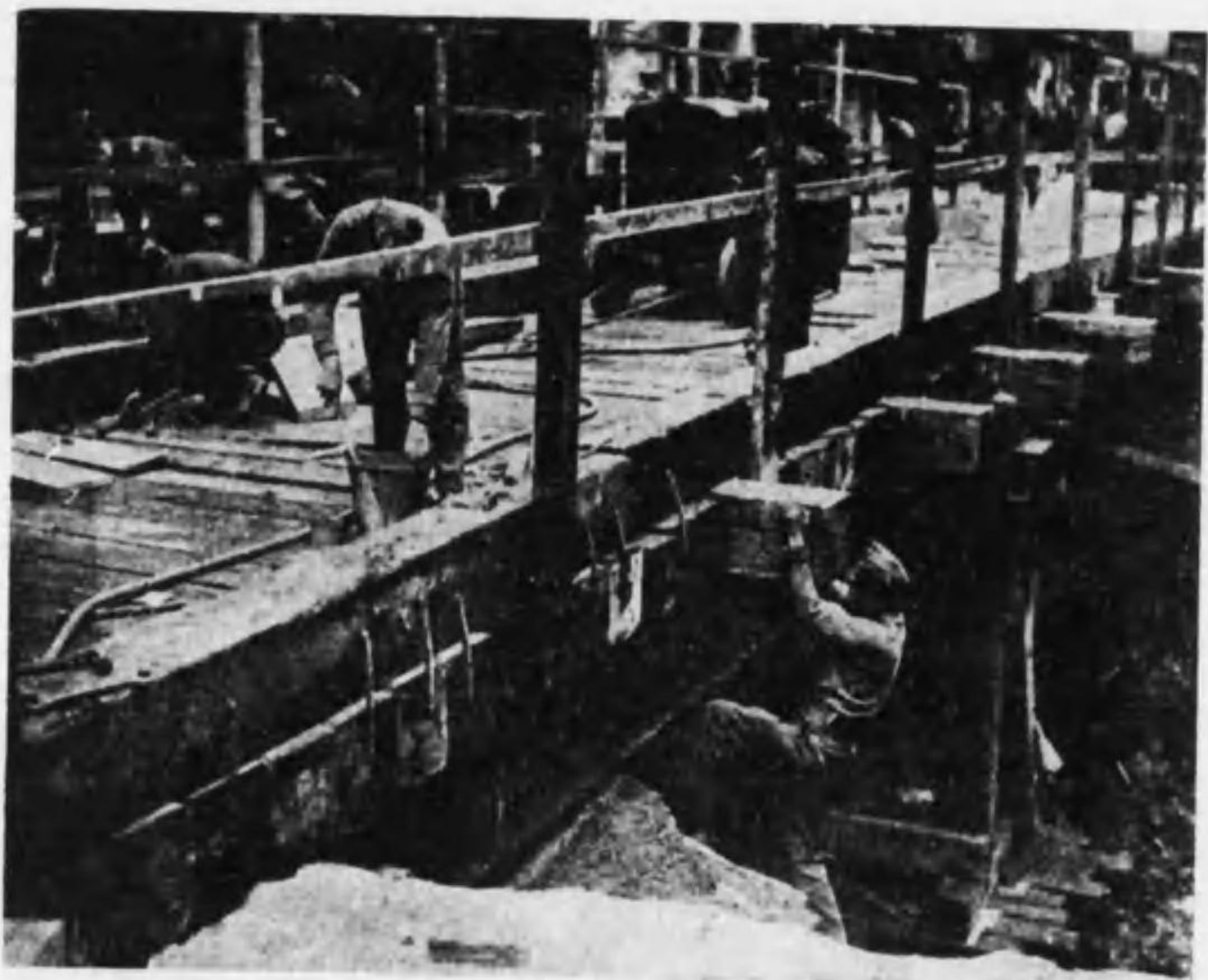
爆撃が開始せられるや、多くの人々は大部分の爆撃は建物を避けて、街路に投下されるものと覺悟したが、果して丁度其の通りであつた、建物は無事であつても、下水道や瓦斯、水道等の導管が破壊されたため、之が修繕には豫想外の費用と勞力とを要し



トネクツハを之てし去撤を弾爆計時しせ下落に近附院寺ルーボトンセ
たじ生を坑斗漏の映百徑直にるためしせ發爆てし出び運に池草

た。家の建て込んだ街路に於ける交通の紛糾は云ふまでもなからう。例へば一發の爆弾が有名なフォイル書店の前のチエアリンググクロス街に投下されて、地下の諸施設が破壊されたため、其の修理には實に二百五十萬弗を要し、漏斗坑には橋梁を架けて、此の重要な生命線と云ふ可き廣場の交通が復舊されるまでには、一隊の技師が二ヶ月も働いたと云ふ有様であつた。之は餘談であるが、フォイル書店は、勿論此の橋の開通を其のままに見逃す筈がない。一般の開通式と同じく、橋の一方の終點に白いリボンを張りめぐらして、所定の時間が來るときのしりとりめかけた友人達を前に、其のリボンを切つて落とすと云ふ華々しい所を見せたので、現在此の橋はフォイル橋として有名になつてゐる。

爆撃された家屋は、二三日経つと前よりも綺



砲撃。るあで務任の隊助補軍衛防は繕修の所個害被撃爆るけ於に敦倫
圖一の等師技路道の府政るあ、つし設建を梁橋に上坑斗漏の

一三
 麗になるのが普通であるが、それが只窓ガラスを拭いただけでも、又板圍ひで被はれただけでもさう見える、不潔な住宅も其の傷手を補修した様に思はれるのであるが、之に反して街路の方は一度爆撃せられると、一週間位すると従前よりも一層汚くなる。之は爆弾の漏斗坑を補修するがために、まづ其の局所を三四倍に擴大しなければ、完全な工事が出来なからである。是等の中にあつても誰一人も修理しようと思はないものは、公共建築物の時計であつて粉な微塵にでもならない限りは、大抵は文字盤が壊れたり、針がぶら下つたりしてゐる。戦争初期に於ける倫敦の特徴とも見られた砂囊や街角の白塗の線等は、今では殆んど全部姿を消してしまつた。ピカデリー^{ナイクス}廣場のエロスの銅像の周圍に積むであつた砂囊さえも、最近では取除いてしまつた。

餘り静かだと却て睡れない

十一月、十二月に入ると倫敦の夜襲は、昨年の夏の嫌がらせの空襲よりも稍きびしいと云ふ程度に立戻つて來たが、此の中だるみの状態が、左程長く續くとは誰一人も考へてゐなかつたので、引續き九月及十月と同じ生活をしてゐた倫敦市民は、激烈な空襲にすつかり慣れ切つてしまつた結果、サイレンが響き、爆弾が唸り、高射砲が火を吐き出すと、かへつて一種の安心を感じる様になつた。たまに高射砲の音が殆んど一發も聞かれぬ夜があると、餘り静かなので眠られないとこぼす人が大勢ある。併し斯いた夜には一種異様な音響が幾度となく響いて來て、市民は其の度毎にびくびくしてゐる。けれども九十

九パーセントまでは、其の恐怖は何等謂れのないものである。此の音は爆弾が空氣を切つて飛ぶ時遠方
 一三
 でヒューヒューと鳴る其の唸りの様な音なのであるが、倫敦市民の耳に斯ふ響くのは、實は大抵は猛烈なスピードで近づいて來る自動車のモーターの音と非常に紛らわしいからである。日中でも空襲がある場合には、事務員や家庭の婦人達は戶外を自動車が通ると、デスクやテーブルの下に慌てて潜り込む事が珍らしくない。之は丁度神經質なアメリカ人がトラックがバックする時に思はず小さくなるのと同様である。
 夫は兎も角も、一般に倫敦市民は、日中には空襲があつても、實際に高射砲や爆弾が唸り出すまでは餘り騒ぎ廻らない。空襲が實際行はれてゐるかどうかを確かめ度いと思ふ時には、近くの巡査の様子を見るとよい。巡査は空襲中は、いざと云ふ場合に備へて、ガスマスクを臂から胸の所へ持つて來てゐなければならぬのである。因みに巡査達は空襲が開始



るあゝつれらせ用利に者難避て於に内場車停鐵下地チツイウドルーオ敦倫
が鐵下地は車列の間ンボルホとチツイウドルーオ。ムーホトツラブと道軌
たつなゝとこるす止停を轉運に達め爲がるあゝつれらせ用使に壕空防

であつて、大抵のものは七階乃至はそれ以上のビルディングの二階か三階に住みたがる。其處に居れば、爆弾が街路上に投下された場合にも、又直接ビルディングの頂上に命中した場合にも、比較的安全であるからである。爆弾が建物の一角に命中しても、その方が防護室で潰されるよりも危険が少い。

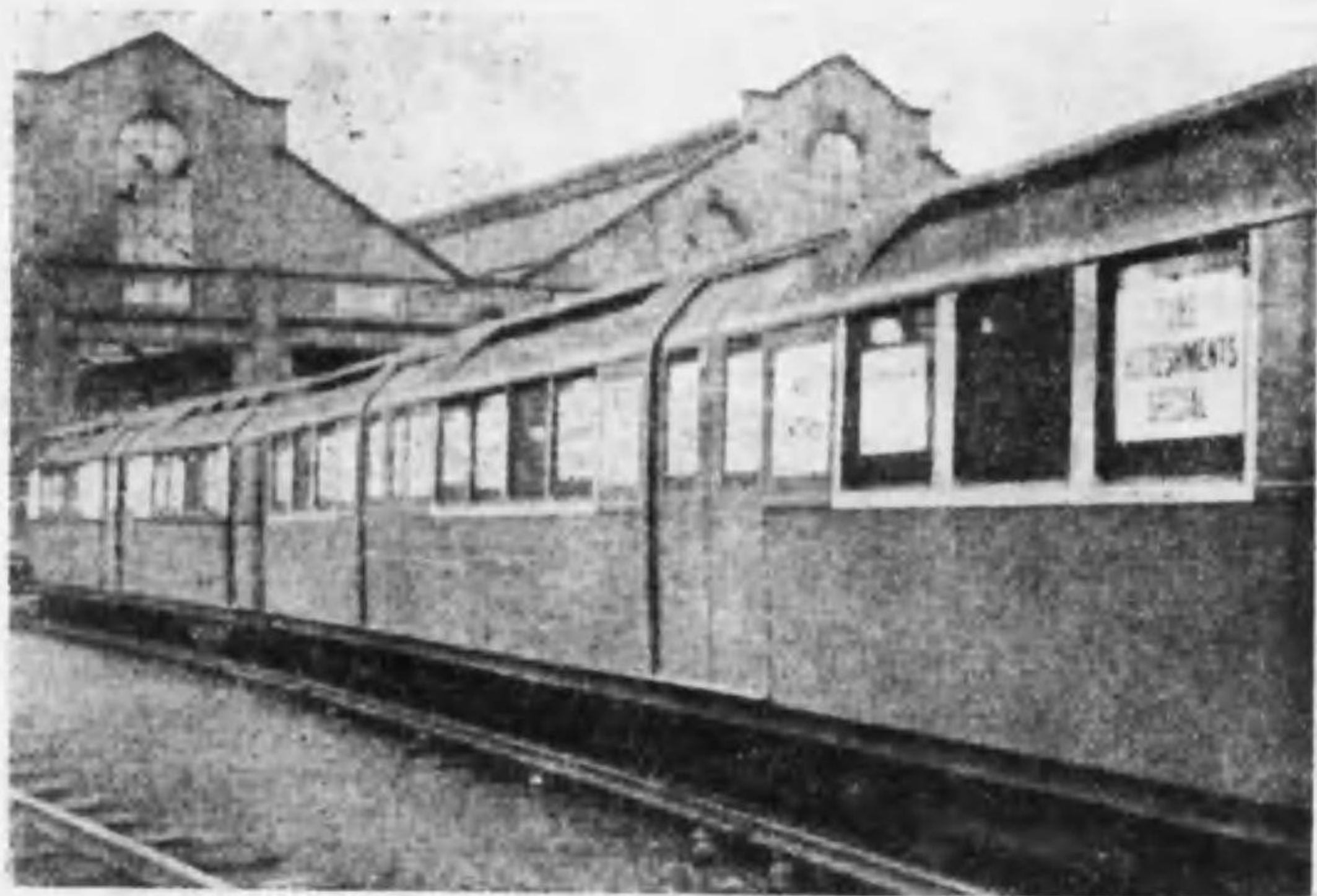
今でも百万人以上の倫敦市民が公共防護室に毎夜を送つてゐる。中には習慣からする者もあれば、安全のためする者もあり、又住宅を失つたために来る者もあらし、規則正しく其處へ顔を出して自分の席を取つて置くために来る者もある。残りの五百萬の市民は尙アンダーソン防護室で眠るか、又は自分の家に居残つてゐる。後者の中其の三分の一は自分の寢室の中にある。大規模な防護室は二百



の官察警一は此。るあで置裝臺壕の前人七の内壕空防ソゾーダツア
るあでのもしせ用採てに省安保を案考

されて以來は、例の有名な高いナイゲーブルウの帽子を脱ぎ換へて今では何時でも鐵のヘルメットを被つてゐる。

電撃戦の結果、近頃著しい現象は、高層のコンクリート建築のアパートへ入りたがるものが歴倒的に激増した事である。例へば一度爆撃を受けた事のあるテムズ河畔の巨大なドリーフィン、コートのような住宅でさえ、日に幾百人となぐ断はられて行く。然るに昔は榮えたが、今では荒れ果てた、ベルグレイヴ街やケンシントン街の如き、宏壯で古風な住宅やアパートのある地區では、殆んど無料で月極めの契約が出来る。今日鐵筋の家屋で利用出来るのは多くは二階建であるが、かうした家屋は需要が少い。之は防空建築規則の第一條では、少くともコンクリートの三階建でなければならぬとしてあるから



特別食堂車が地下鐵の避難者のために安価な食料を供給する
 爲め終夜運轉をせよ。

一六
 程もあつて、全部で十萬人を收容出来るが、是等は殆んど皆應急處置の設備が出来て居つて、看護婦が各一名宛ゐる上に、醫師が少くとも毎晩一度は巡回する。腰掛は既に二十七萬人分が出来てゐる。全市民に行き渡る様になるのは只時間の問題である。地下鐵の驛で夜を過す人は十五萬人程居るが、彼等には茶、菓子、チョコレート等の辨當を買ふ機會が一晩に何度かある。此の食物は「特別食堂列車」で運ばれて来る。此の爲めに緑の上つ張りを着て、赤い頭巾を被つた少女が千人も居つて、顧客にサービスする。彼女等は一週間に七弗の給料を取つてゐる。倫敦市中の他の防護室も殆んど何處でも夫々内部に酒保がある。又市役所の經營する移動酒保が夜毎にサービスして呉れる。

防護室の生活も思つた程悪くはない。一口に云つて市民は平常に比して特に健康で朗かさうである。

不満と云へば只一つ、家族水入らずの楽しみが無くなつた事である。あらゆる階級の人々が、互に他の階級と知り合ひ、好意と理解とを分かち合ふ様になつた。

晩になるとよくボーイ達が、其の上役とトランプを遊んでゐる。朝は雑役婦が、お役人の踵を抓つて起して廻つてゐる。大抵の防護室では毎週ダンスが行



ピカデリーサーカスの爆撃の爲めを住居を失つた地下鐵内
 避難者に對して人々を慰むる爲めに、中絶の演藝團が行つた技藝
 演習の場である。

はれるが、さうした折には日中は貴婦人の給仕をして居つた、ボーイ達が、其の婦人達と、ワルツを踊り、支配人が毎朝ビールを賣つて呉れる給仕女と、フオックスストロットを踊つて楽しみ合つてゐる。

大體毎週一回、政府特派の慰問演藝人が防護室にやつて来る。最近では、労働階級の人気者である喜劇俳優のジョージ、フォーミイが地下鉄のオールドウィッチ驛で、數千の聴衆を前に、歌つたり、ウクレレを弾ひたりした。此の興行主は外ならぬ倫敦防護室監督官のエドワード、イーヴァンス卿(所謂「ブロークのイヴァンス」)である。新聞等も防護室の空氣がだれぬ様に腕に燃をかけて働いてゐる。「此處に防護室遊戯あり」といふ一欄を設けて、クロースワードパズルや漫畫等で紙上を賑はしてゐる。クロースワードパズルの題としては、例へば「現在に至る迄の世界中のクリケットのチームの十一人のメンバー

」であるとか「選手の頭文字が凡てHで始まるチーム」と云つた風のものがある。

倫敦子は馬車に乗る

爆弾及其の威力の倫敦市民の睡眠上の習慣に及した損害の外に、倫敦の籠城生活を如實に窺はしむるものとしては、湿々した灰色の外観に表れた様々の變化よりも、小さな細々した事が却つて切實な感じを與へる。例へば自動車の購入が出来なくなつた結果、倫敦の町々には到る所騒々しいシャロツビーと呼びなされた馬車がうよ／＼してゐる。斯したものゝは合衆國では、乗物の古道具屋にでも行かぬ限りはお目にかかれない代物である。開戦以來現在程流し自動車が多い事もない、これは最近政府が「只乗り制度」を始めた結果であつて、平常汽車やバスを利用して居つた人々を乗せてやる自家用自動車の持主に



二階の階に面して風に吹き飛ばされれば乗合自動車
。幸に客は何れも無事であつた。



運轉手が車の内側に熟睡する。爆風に依りて上壁に吹き上げられ、幸に傷も負わなかつた。

増した交通運輸に對する應援のために狩り集められた様々の系統のバスが横行して居つた。中には男の代りに、灰と青の色を持つ制服の女車掌が乗つて居るものもある、此の女車掌の中には今でも矢張り絹のストッキングを著けハイヒールを履き口紅を眞紅に塗つたなまめかしいコーラスガールの一隊も交つてゐる。

倫敦の下町は今でも醜い廢墟と漏斗坑の町

は餘分にガソリンの特別配給を許すこととしたのである。其の他大通りにはありとあらゆる色をした二階つきのバスが右往左往してゐる。其の中でも倫敦運輸局の緋色のバスが最も目立つのは勿論であるが、倫敦の空襲が秋の最高潮に達した時には、リードの栗毛バス、マンチエスターの赤色バス、エジンバラの青及クリーム色のバス等や、其の外倫敦の激

と云ふよりは、寧ろ繁華な商店や股賑な大通の町である。併し市内の相當な區間に亘る地區に、羽目板の中に商店の窓口が少しく開けてあるのが並んでゐるのを見ると、矢張り異常な氣配を感ずる。商店主達は近所に爆弾が落下する度毎に、二三日毎にガラスを取り換へるのでは手間でもあるし、金もかゝるので、板や其の他の材料で色々細工して店先を圍つて



爆彈に依りて破壊された窓の硝子を張り替へる。硝子の板は、硝子の板を張り替へる。硝子の板は、硝子の板を張り替へる。

ゐるのである。さうして最初は此の圍ひに、例へば「心持よく空襲を受けませう、一つ野外ベツトを御買ひなさい」等と描いてゐたが、後には店内の商品を面白い繪で廣告する様になつた。不思議な事に此の如く改造した陳列窓の方が普通の大きさのものよりも大勢の人を惹きつけてゐる。

街の中心にある灰茶色の板の面に描かれた裝飾の中には、國民の戦意を煽るために建築物や廣告板に描かれたと同じ様な大きな文字や圖案の様なものがある。ハーバート、モリソンの「GO TO IT」(行つて見ろ)と云ふスローガンは、少くとも一町内に一ヶ所は描いてある。ピカデリーの廣場では、「必勝を期す」とか、「勝利を確保する爲めに國債を買へ」とか、「戦争には諸君の雙眼鏡が要る、手近の眼鏡屋へ持參せよ」等とかいて



此は倫敦の商店。此處で常會の英國人は云ふ「平常平は事仕」
西の方に郊外に被たつ雑貨店を以てして光景をあらわす。

ある。其の他毛色の變つた所では、或る爆撃された店には「強奪者」とかいて下げてあつたり、爆撃はされたが尙仕事をつづけてゐる店の外面には、殆んど何處でも「營業は平常通り」と描いてある。

仕立屋は針の不足に悩む

商店には依然商品が堆かく積んであるが、之も間もなくなくなるだらうと云ふのは、最近政府は小賣人の仕入、殊に羊毛、皮革、金屬品の仕入を、電撃戦前の平均約三分の一に制限する旨を告示したので、この數週間でも既に若干の商品にその影響が現はれて來てゐる。例へば仕立屋等は盛に制服の注文があるために、留針の月の割當量を使ひ切つてしまふので、徒弟の少年少女に床板の間に落ちたピンを探し廻らせる有様である。又整髪用のピン（ヘヤーピン）の不足も甚だしく、爲めに多くの婦人殊に職業婦人の

達は盛に斷髪してゐる。縫針、ピンセット、爪切鉋等は間もなく買へなくなるだらう。又店によつては既に石鹼の販賣を一人宛一個に制限してゐる所もある。勿論二三分して又同じ人が引返して來て、買つて行つても一向に差支へはない。

政府が絹靴下の販賣を禁止した時も大騒ぎであつた。婦人連は夜間や日曜日用の靴下を買溜めて居る折柄として、早速商店に駆け付ける者が多かつた。暫くすると木綿及黒の重い羊毛の靴下が冬季晝間の流行となつた。婦人用の化粧品は一人當り一週間に只六セントだけしか使用を認められてゐないので、新聞雑誌の婦人欄の記者達は、讀者に對し煙草の吸ひ口や酒盃で口紅を餘り落さない様にしなければならぬ。コンパクトをのぞく度に無意識に白粉を叩き込むではならぬと注意してゐる。彼等に云はしむれば化粧品は今や贅澤品であつて、決してぼんやりと

消費す可きものではないのである。

商店の販賣する商品の量と種目とは益々窮屈になり、公衆の購買力は益々萎靡して行くが爲めに、街の買物姿は日一日とさもしくなる。此の冬程に倫敦の婦人がおめかしをしてゐる事はないのであるが、二年も三年も前の古いコートや帽子を被つてゐるので、實際尾羽打枯らした様に見受けられる。男は古い鞞皮のレインコートや洋服を着込んでゐるが、之も亦一月以上もアイロンを當ててゐない。

市民は何れも夜は眠られず、恐怖には襲はれる、晝間は長い間公務の爲めに働かされるので、皆憔悴してゐる。併し空襲で如何にも降參したと云つた顔をしてゐる者の少いのは、紐育でも仲々アメリカインデアンに會へないのと同様である。何故然るかは誰にも其の理由が説明出來ない。もう一つ珍らしい事には、過去四ヶ月に鳴り響いた吊鐘の數は夥し

いものであつたのに、葬式の行列には全然出會はない。

食糧問題は徐々に悪化して來てゐるが、未だ量の上ではさう大した事はない。倫敦の市民は従前と同様の分量を食つてゐる。現在の貯藏量は、假令輸入が全く杜絶しても、猶優に一ケ年は全國民を養ふに足るだけはある。併し戦前に比較すれば食物の種類も減少し、分量も次第に窮屈になつて來始めた。

玉葱、レモン、ベイキングチョコレート、バナナ等は殆んど出拂つてしまつた。罐詰の残部も間もなく消費し盡されよう。特別の上等の菓子類は、フォートナム、アンド、メイソンやセルフリッジの如き高級食品店以外にはストックがない。牛肉、豚肉、羊肉及びベイコン等は一般人の口には、はいらないので、鶏肉、肝臓、舌、腦、其の他のものを食つて満足してゐる。倫敦市民が思ふ存分に手に入れたいも

のは、バター、砂糖及茶位のものであらう。併しづれにせよ倫敦市民は從來お茶を飲み過ぎる嫌があつたと思ふ。中には買へる事は買へるが、中流以下の階級には高價過ぎる食物もある。例へば加洲産夏密柑の如きは一割が二十五セントもするが、卵は一ダースが八十二セントである。

お茶には角砂糖が唯一かけら

料理店は從來一人の客に對し肉と魚との二品を出す事を禁止されてゐたのであるが、今度肉の割當てが正規の量に比し四分の一に削減されるまでは、さして苦痛を感じてゐなかつた。砂糖及バターも極く少量しか客に出さない。リッツやドオチエスターの如き最高級のホテルでさえも、飲物につく砂糖はほんの小さなのが一杯に對し唯一かけら添へてあるだけである。食事につくバターは一食分として指の爪

位しか出さない。併し料理屋の主人として、食料の供給以上に苦勞してゐるのは、夜間の營業が無いのに、如何にして其の經營を繼續して行くかと云ふ問題である。結局唯一の解決方法は鳴物入りでランチ客を集めて、三四の座席を豫約する事であるが、之はうまく當つた。何故かといふと、多くの倫敦市民は今夜や夕食の代りにランチに人を招く事になつたのと、若干の外國人經營の上等料理店の主人等が歸國して店を閉鎖した爲め料理店の數が減少したからである。

空襲が數週間も途切れて、一息つける事になると、市中の人々は早速午後と夕方の娛樂を求め出す。国立繪畫館ナショナル・ギャラリーの地下室に於けるミラ・ヘスの畫間の音樂會は大變な成功を博したので、ヘスは戦争の終了するまで之を繼續するプランを立ててゐる。同じ様に興行家のハーバート、フォージョンは迂回地區の

景氣回復の爲め、クリスマス直前に新しいレヴェーの本讀みを開始したが、此の爲めチェアリングク羅斯街劇場は毎日午後になると、壽司詰滿員の盛況である。茲に所謂迂回地區と云ふのは、不發爆彈の落下所在地に、警察官署が黄色の標識を立て、交通機關を迂回せしめてゐるから斯く呼ばれてゐるもので、全滯到る所にある。カフェ、ド、バリは長年の間倫敦市内でも最も愉快な夜遊び場であつたが、今では畫間のみ開場して、ランチタイムの間、特にステージを設けないで、小演劇をやつてゐる。午後遅くなると、勤務歸りの士官達が、それぞれ、細君を伴れて、お茶の時間のダンスをやり、ピカデリーホテルや、ライオン・コーナー・ハウスに來る。此處の八人組の音樂隊が「トラリーの薔薇」、「ペグインの始め」等と云つた曲を演奏してゐる間に、客達は六ペンスのお茶を呑んだり、ホットケーキを喰つてゐる。

午後五時十五分頃燈火管制の時間が近づけば、ベーカー、ストリートのリッツやメリーズクラブの如き地下室のカクテル、バーは忽ち満員となる。初めて来た者は誰も申し合せた様にまづ天井を見る。之は勿論天井の構造が頑丈に出来てゐるか否かが気になるからである。尙倫敦市民は地下室か又は少くとも五六階のコンクリート建のビルディングの最下階層の床上で、ダンスもすれば食事もしてゐる。スタールヘン、バーク公爵が家族同伴で、殆んど毎晩訪れるランスダウン、ハウスと云ふ料理店では、客はオーケストラに面して十五度から二十度位の角度に坐る。此の部屋は元來映畫劇場として設計されたものであつたが、政府が船舶省の防護室用の食堂に徵用する事に決定して以來、料理店に改造したものである。ピカデリーサーカスの上品なハンガリア、レストラントと云ふ料理店の正餐の代金中には、店

内の簡易寢臺で眠る特權や、或は好きな時に備馬車で自分の家に歸る權利が含まれてゐる。

夜間に開場してゐる興行物は現在二ヶ所しかない。是等は空襲の激烈を極めた最中でも開場して居つた。其の一つは風車劇場Windmill Theatreで興行して居るのであるが、此處には主として地方出の頭の禿げた商人が来る。ルヴェード・ヴェイルと云ふ名の豪華な道化芝居をやつてゐる。他の一つはブレイヤーズ、クラブであるが、此の方はコヴェントリー、ガートン地區の近所敷不快な爆彈が盛に投下された際は、一時セント、ジョンズウツドのオーサー、アンソニー、パークレー館に移動して居つたが、目下はリッツホテルの近くの今は廢業してゐるナイトクラブの地下室に落着いた。觀衆がホットドッグを食べ、ビールを飲んでゐる間に、俳優はビクトリヤ時代の歌を歌ひ、諷刺を飛ばす。俳優の中には、英皇室侍醫のホ

ーダー博士の姪に當る若くて美しいジョアンナ、ホーダーがゐる。此の女優は「貴方はほんとに、ほんとに、ほんとに美男子よ」と云ふ世にも惱ましい歌で猛烈なヒットを飛ばして居る。一週間の内六晩は、此のクラブは情報省や外務省のお歴々から、芝居通、藝術家、新聞社員等の倫敦の名士達が、身動きもならぬ程詰めかける。斯した人々は芝居が終ると、俳優達と一緒に踊り、且つ食つてゐる。パーティーのはねるのは眞夜中であるが、物騒な夜には、大抵の者は椅子や長椅子の上で固くなつて夜を明かす。

クリスマス前三日前に、倫敦のハイドパーク東にある上流社會の住宅地メイフェアの社交界外交團、戦時勤務の男女等が、多數集合して一晩だけでも戦争のことを忘れて、グロヴナーハウスで慈善の目的で空襲舞踊會を開いた。此の夏以來、正装で大勢の人々が集つたのは、之が最初の事であ

つた。舞踊會の楽しさうな雰圍氣をみてゐると、誰も當夜でさえ空では猛烈な空中戦が行はれてゐるとは夢にも思はれない位であつた。幸ひにも通りの向ふにあるハイドパークの巨砲の唸りは、オーケストラの響きに掻き消されてしまつた。戦争を偲ばすものは、只可愛らしいハンガリアの歌姫マダクンの愉快な歌だけであつた。歌の文句は大略次の通りである。

小ぢんまりした家を買ひました。

あなたの帽子位は置けますよ。

私は桃色薄紗の部屋着を羽織つて居るつもり。

私も話の分らぬ女ぢやない。

まだまだ此處でも安心できぬ。

そこらあたりで深い地下防護室を手に入れました。

クラーク・ゲイフルとは何者であらう

倫敦市民は今でも午後だけ上映される映畫を見に行くが、ハリウッドのスター達の演ずる、冒険映畫や、色物映畫位では、もう戦時気分から心を外らす事が出来ない。英國には英國人のヒーローが擡頭して來た。外でもない、男ではR・A・F(空軍)やARP(防空團)の勇士達で、女ではWRENS(海軍)WRAF(空軍)及ATS(陸軍の本士防衛軍補助隊)の果敢な婦人達である。此の問題に關し、デイリー、ヘラルド紙の時評欄の寄稿家のピカーハネン、スウェイファアは斯ふ書いてゐる。

「最近我々は、有名な映畫スターがスリルを味はせるつもりで演じてゐる場面を、皮肉な氣持で眺めてゐる。抑々クラーク、ゲイフルとは何者であるか。映畫では、さも強さうに何事か演じてゐるが、其の

傍にはARP(防空軍)の勤務者が幾百となく眠つてゐる。彼等は今でこそ、何處の者とも知れぬ一介の男女にすぎぬが、懸て夜の帷が下りて來ると、自分でも夢にも思はなかつた様な危険に立向つて行くのである。」

倫敦で最も大きい映畫館の幾つかが、レイスタースケヤーに落下した地雷の爲めに、其の前側を散々にやられたのであるが、それでも猶他の映畫館でベット・デイヴィス及びシャルル・ボワイエ主演「すべて此の世も天國も」であるとか、チャリー・チャップリン主演の「大獨裁者」等が記録破りの大入りを見せてゐる。倫敦のスタジオも目下旺に映畫を製作して居つて、其の中には、バーナードショウ原作の「バーバラ少佐」と云ふのがある。それには「ピグマリオン」で有名になつたウエンデイ・ヒラーが出演する。ミカエル・レッドグレイヴとデアナ、ウエ

イヤードの主演する「キップス」ジョン・ギールガッド主演の「帝國創建」等がある。

併し金の無い倫敦市民は大抵ウエストエンドへ行くつて、何か仕事はないかと見て廻る事が流行してゐる位で、空襲下の生活は極めて單一化したものになり、空襲を除けば、極めて陰鬱で不活潑になり始めてゐる。日曜日に海岸地方へ遠足したり、南の方へ行くやうな事も何ヶ月以來全くなくなつた。倫敦市民の唯一の郊外旅行と云へば、二百萬に上る婦人子供の避難者を訪問する事に限られてゐる。日曜日に工場や事務所働いて居ない場合には、庭で防空壕を掘るとか、爆撃された友人の家の修理を手傳ふ位が關の山である。又事務上の出張を除けば、自分の住宅の近傍を離れることは極めて稀である。それと云ふのも旅行は甚だ困難であるし、殊に夜は危険が多いし、又市民としての色々な奉仕作業もあるか

らである。同じ理由で婦人は晝も夜も住宅の傍に居る。實際空襲開始以來、倫敦の中央へ行つた事のないものが何萬人居るかも知れぬ。

新聞に對する政府の言論取締、ラヂオプログラムの短縮、議會に於ける有力なる政府勢力の消滅、一般の生活難、生活上の危険及不便等の理由から、皆民衆の考へ方も似て來るし、趣味やマンネリズムや表現其の他まで全く同じ様になつてしまつた。例へば、一般に個人的な爆撃の經驗談は決して人の前では口にしてはならないものと、何時となく定つてしまつた。之は倫敦では、自分の外に、今更誰も他人の爆撃談には興味を持たなくなつたからである。人が集つてゐる折に、空襲警報が鳴つても皆知らぬ顔をしてゐるし、會話も一寸も途絶へることなく、前と同じ調子で續けられることの習はしになつてゐる。

今夜は少々喧ましい

誰も彼も同じ考へ方をする様に強制される結果、倫敦市民達は、英國の過去の指導者達を毒々しく攻撃してゐる「罪人達」とか「革命戦」とか云ふ様な本を盛に讀むたり、象棋が流行し、ポヴリールと云ふ飲物が飛ぶ様に賣れる。ポヴリールの廣告は振つて居つて、爆弾を處理する人々が無頓着に巨大な爆弾を置き放してぶら／＼歩き出す繪が書いてあり、その中の一人が、「おい老翁さん温いポヴリールでも飲んだ方がましぢやないか」と云つてゐる文句が書いてある。目下の「電撃戦」気分を出すため、天氣豫報も今迄の紋切り形をやめて、「静かな夜」とか「今夜は少々うるさい」等と云ふ言葉を使つて居る。寢る時には枕の下に財布や紙入れを入れて寢る。J・Bブリーストレイが、ラヂオのアナウンサーになり、

チャールチルの養子のゲイク、オリヴェーが演藝に出る。「私があなたを見入る時」とか「私は親のない子供一等の歌が流行る。夜一步戶外に出ると機械的に大空を見上げる。其の他皆が誰でもする様な事を其の通りやつてゐる。

倫敦市民は、何れも國王及皇后兩陛下が戦闘員たると非戦闘員たるとを問はず、全國の男性及女性の仰ぎまつる主権者として、寔に氣高く振舞つてゐらせられる事に付ては、皆口を揃へて讚へ奉つて居る。ウインストン、チャールチルは一代の無骨者だと定評されてゐるが、併し一般にヒットラーを叩き倒す男は彼を指しては外にないと信じてゐる。ウインストン、チャールチルの才能あればこそ、民衆は彼がチェンバレン内閣の失政以來、倫敦市民の糾弾の的となつて居つた保守黨の黨員といふよりも寧ろ事實上の首領である事實を大目に見てゐるのである。ウイン

ストン、チャールチルに付て、最近の食卓を賑はしてゐる話題がある。それは閣議の際一關係が彼に英空軍を動員して、獨逸の大都市に對し軍事施設以外の地點にまでも爆弾の雨を降らして、ナチスに一本御見舞をしたら如何かと訊ねた所が、首相は、斯ふ答へたと云ふことである。「諸君、さうした事も仲々悪くない樂しみには違ひないが、私は何と云つても原理を重んずる人間ですから、樂しみ事よりも、まづ先きに自分の事務を處理しなければならぬのでね。」聞く所に依れば、獨逸では倫敦があれ程に空襲の下に曝されても、依然として性懲りもなく、よく持ち耐へてゐるので大いに困惑してゐるさうである。獨逸では、英國人は屹度すつかり閉口して、眞相に目を塞いでゐるのだと考へてゐる。併し、英國は決して閉口してはゐないで、反つて彼等はもしも終局に於て英國に勝利の日が訪れるやうなことがあると

すれば、(是は彼等の夢であるかも知れぬが)此の攻撃戦に勇々しく對抗してゐる倫敦市民の功績が、其の勝利の大なる原因になるであらうと考へて居る様である。

昭和十六年六月五日 印刷
昭和十六年六月十日 發行

發行者

財團
法人

大日本防空協會

代表者 佐上 信一

東京市麴町區霞ヶ關內務省內

印刷者

青

田

伊

祐

東京市神田區旅籠町二ノ一二

發行所

東京市麴町區
內務省內

財團
法人

大日本防空協會

振替口座東京四七七〇〇番

(印刷館業廣 田神)

終

